

2004年第25週報告分

- 発生動向の概況
- 定点医療機関からのコメント
- 全数届出患者報告数
- 五類定点患者報告数
- 疾病別グラフ(五類定点週報告分)
- 病原体検出情報(表・グラフ)
－腸管出血性大腸菌感染症－
- 年齢階級別報告数
- 保健所別報告数
- 保健所別報告数(定点当たり)

感染症豆知識

インフルエンザ

東京都医師会感染症予防検討委員会

事務局:東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話:03-3363-3213(直通)

FAX:03-5332-7365

E-mail: idsc@tokyo-eiken.go.jp

アドレス: idsc.tokyo-eiken.go.jp/



発生動向の概況 25週分

(全数報告の疾患)

- ・コレラが2件報告された。いずれも菌型はO1エルトル小川型で、推定感染地はインドである。
- ・細菌性赤痢が1件報告された。ソネ菌で、推定感染地はベトナムである。
- ・腸管出血性大腸菌感染症が10件報告された。血清型はO157が5件(いずれもVT1 & VT2 産生株)、O26が3件(いずれもVT1産生株)、O165件が2件(いずれもVT2産生株)である。O157の2件、O165の2件は各々家族内発生である。
- ・Q熱が1件報告された。病原体検査、血清学的検査で診断されている。感染経路は不明である。
- ・レジオネラ症が2件報告された。推定感染地はいずれも国内で、温泉での感染が疑われている。
- ・アメーバ赤痢が7件報告された。推定感染地は国内4件、台湾1件、シンガポール1件、不明1件で、推定感染経路は異性間性的接触2件、同性間性的接触1件、経口感染1件、不明3件である。
- ・ウイルス性肝炎が3件報告された。B型が2件で、推定感染地はタイ、日本各1件、推定感染経路はそれぞれ異性間性的接触、同性間性的接触である。C型は1件で、推定感染地は国内、感染経路は不明である。
- ・HIV感染症が12件報告された。無症候性キャリア9件、AIDS2件、その他1件で、推定感染経路は同性間性的接触9件、異性間性的接触1件、両性間性的接触1件、不明1件である。
- ・先天性風しん症候群が1件報告された。都内では本年3例目の報告である。先天性心疾患、感音性難聴、低出生時体重等を認めている。母親に妊娠初期の風しん罹患歴があり、風しん予防接種歴は無い。
- ・梅毒が3件報告された。早期顕症梅毒Ⅱ期が2件、無症候梅毒が1件で、推定感染経路は同性間性的接触1件、不明2件である。

(推定される感染地は医師の届出によるものです)

(定点報告の疾患)

- ・咽頭結膜熱の増加が続いており今後の動向に注意が必要である。伝染性紅斑、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎も引き続き注意が必要である。手足口病の流行期が始まった。

(検出された病原体)

- ・咽頭炎1名の咽頭拭い液からエコーウイルス14型が分離された。
- ・急性咽頭炎、急性上気道炎各1名の咽頭拭い液からそれぞれ、アデノウイルスの遺伝子とら

イノウイルスの遺伝子が検出された。

- ・川崎病1名の糞便からライノウイルスの遺伝子が検出された。
- ・急性肺炎・中耳炎1名の咽頭拭い液、ADEM(急性散在性脳脊髄炎)1名の咽頭拭い液と髄液、無菌性髄膜炎1名の髄液からアデノウイルスの遺伝子が検出された。
- ・不明発しん症2名の咽頭拭い液のうち1件からヒトヘルペスウイルス6型が、他の1件からはパルボウイルスB16型の遺伝子が検出された。
- ・菌株で搬入されたMRSA3株のコアグラマーゼはⅡ型2件、Ⅲ型1件だった。
- ・菌株で搬入された溶血性レンサ球菌8株のT型は2型1件、4型2件、6型1件、12型3件、B3264型1件であった。
- ・性感染症定点等から搬入された血清等111件中38件からクラミジア・トラコマチス特異抗体が検出された。
- ・性感染症定点等から搬入された頸管拭い液5件中1件からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出された。
- ・性感染症定点等から搬入された頸管拭い33件中1件から淋菌の遺伝子が検出された。
- ・性感染症定点等から搬入された頸管拭い液5件中3件からヒトパピローマウイルス遺伝子が検出された。
- ・多摩地区の定点から搬入された感染性胃腸炎1名の便からアデノウイルスの遺伝子が、別の感染性胃腸炎患者2名から、それぞれアデノウイルス5型、40型が分離された。

定点医療機関からのコメント

世田谷

- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とヘルパンギーナは同一患児(同時感染)。

西多摩

- ・小学校2年生1クラス、同日に18名下痢、嘔吐出現。他生徒も下校させる。
- ・プール熱増加傾向。

全数届出患者報告数 2004年 25週

分類	疾病名	東京都分(報告週)					全国分(診断週)	
		22週	23週	24週	25週	年累計	25週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	重症急性呼吸器症候群							
	痘そう							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	コレラ				2	3	3	13
	細菌性赤痢	3	1	2	1	62	12	210
	ジフテリア							
	腸チフス					8		30
	パラチフス	1		1		7	1	35
三類	腸管出血性大腸菌感染症	12	7	4	10	74	73	733
四類	E型肝炎						(1)	(11)
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	1	1			16	(1)	(79)
	エキノコックス症							17
	黄熱							
	オウム病					1		27
	回帰熱							
	Q熱				1	1	1	4
	狂犬病							
	高病原性鳥インフルエンザ							
	コクシジオイデス症							1
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	炭疽							
	つつが虫病					5	3	89
	デング熱					4		6
	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱						1	10
	日本脳炎							1
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	ブルセラ症							
	発しんチフス							
ボツリヌス症								
マラリア					8		25	
野兔症								
ライム病							2	
リッサウイルス感染症								
レジオネラ症			1	2	6	3	56	
レプトスピラ症					1		(1)	
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	2	5	1	7	74	11	271
	ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)	4			3	26	5	140
	急性脳炎					3		(33)
	クリプトスポリジウム症	2	1			5		5
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1		2		7	2	75
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症					5	1	34
	後天性免疫不全症候群	8	4	12	12	199	10	471
	ジアルジア症	1		1		11	1	34
	髄膜炎菌性髄膜炎					3		15
	先天性風しん症候群			1	1	3		5
	梅毒		3	2	3	32	2	228
	破傷風					1	2	37
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					3		24

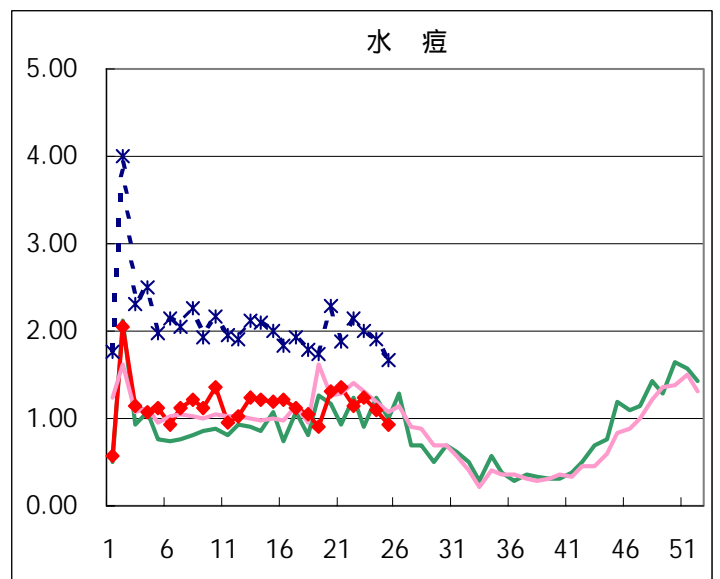
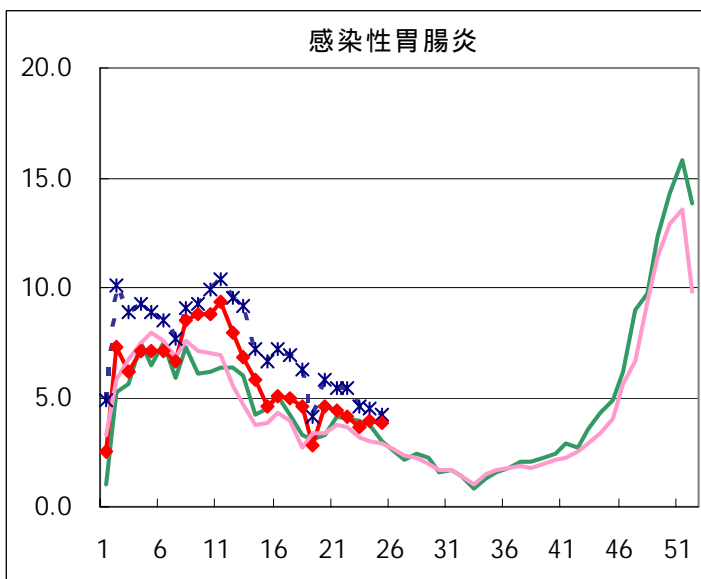
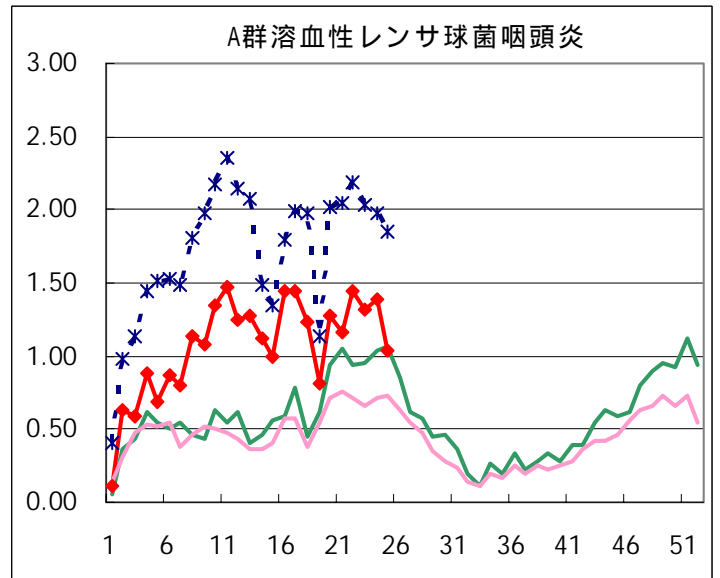
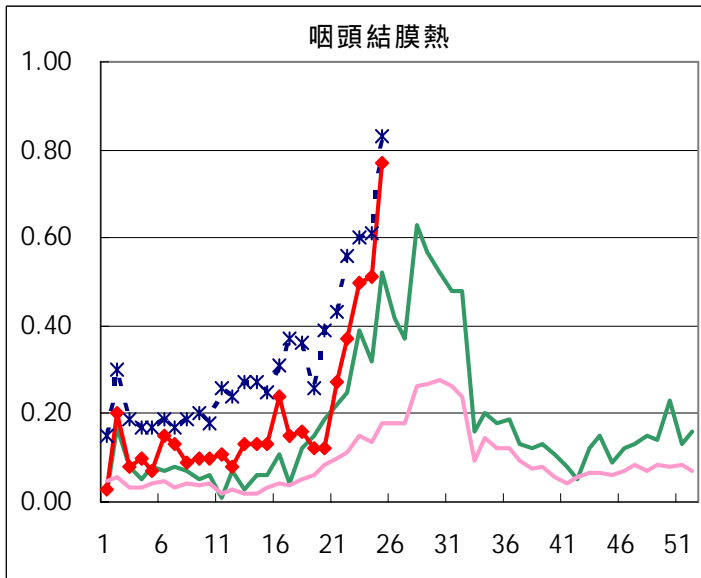
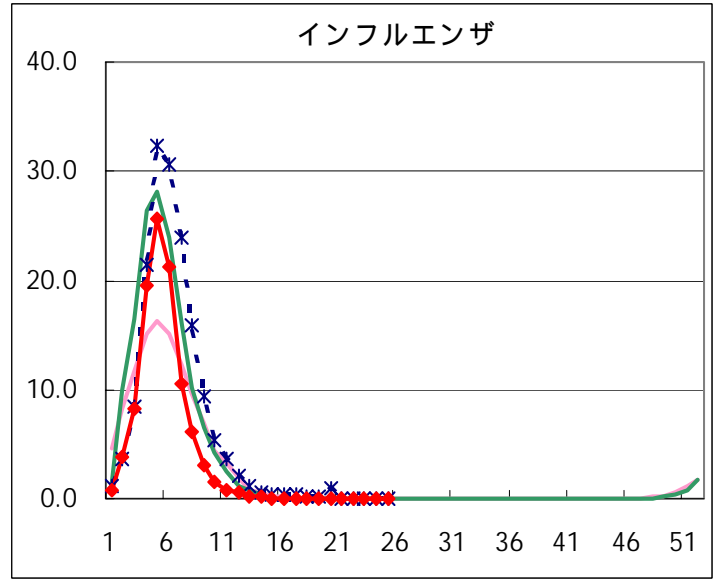
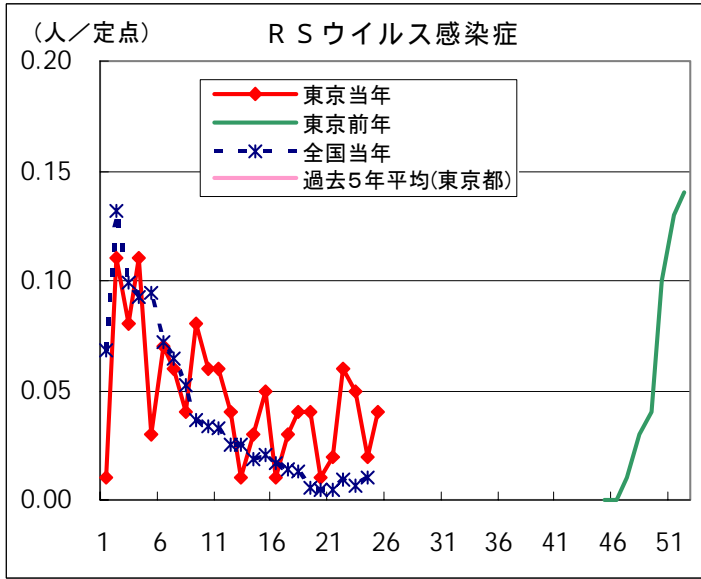
2004/6/28集計(カッコ内の数値は前週分である)。

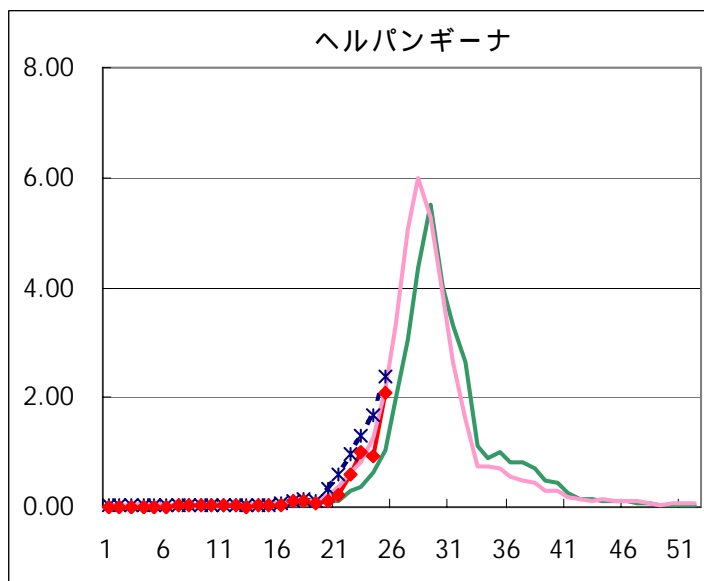
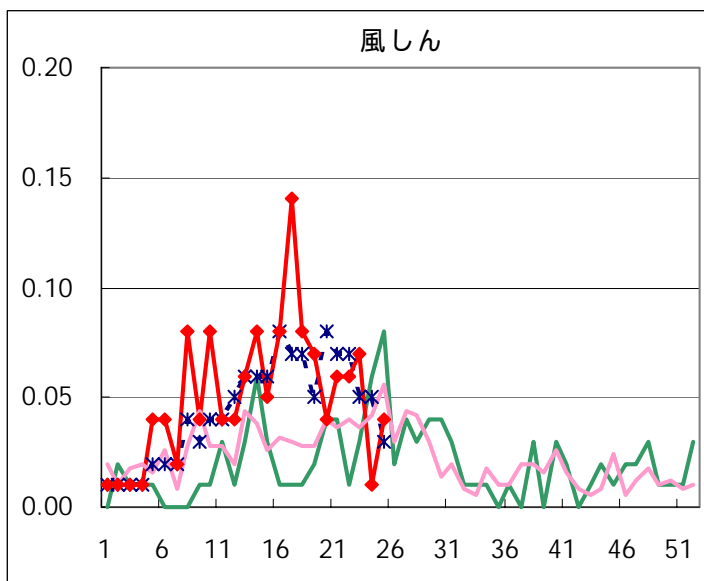
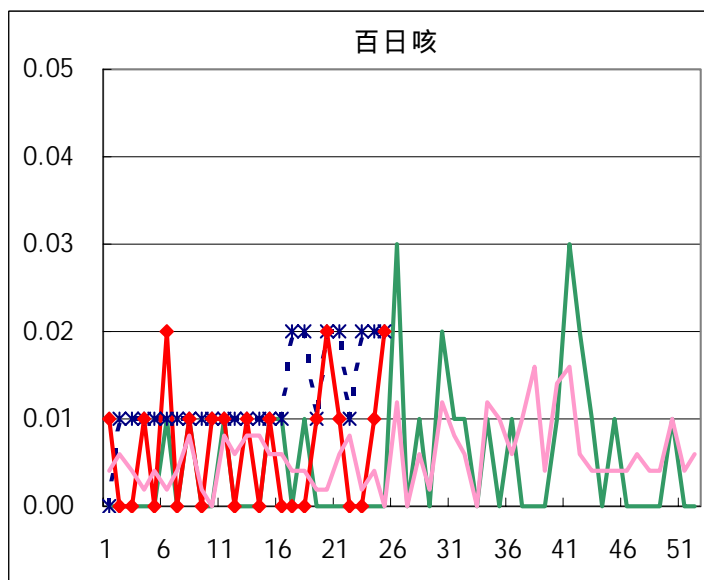
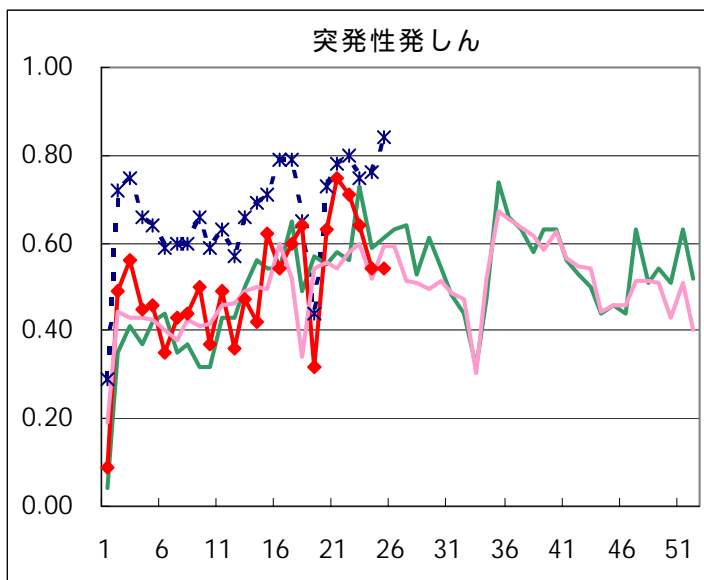
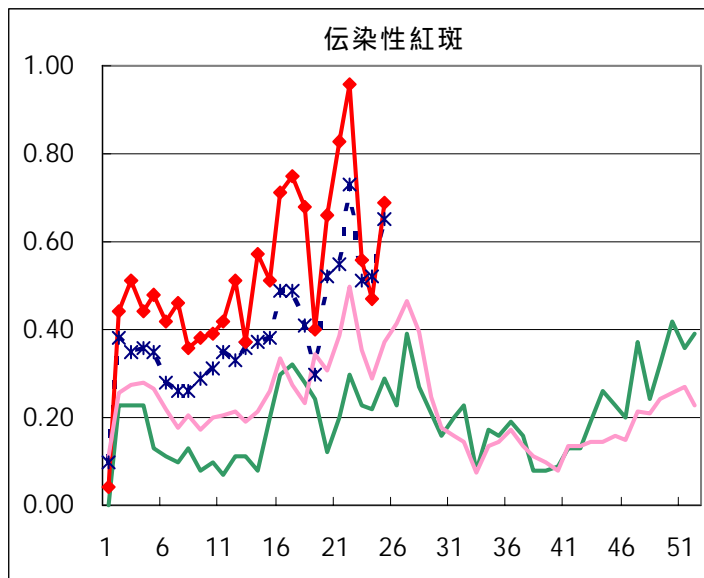
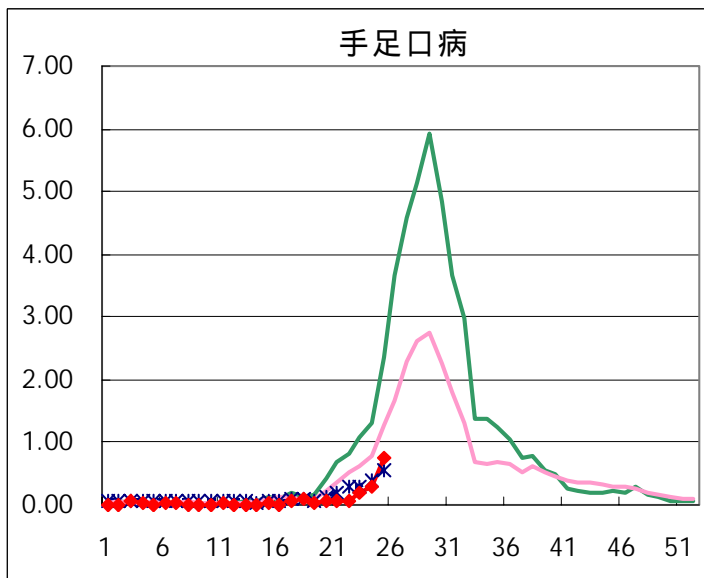
五類定点患者報告数（男女別）

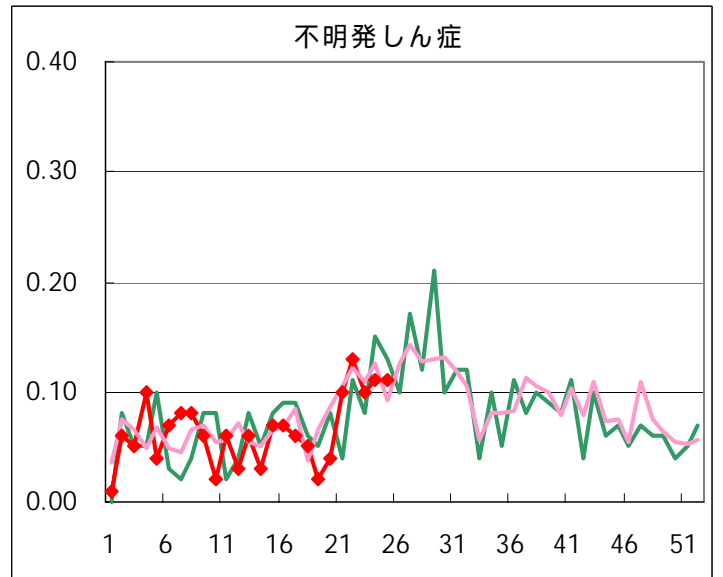
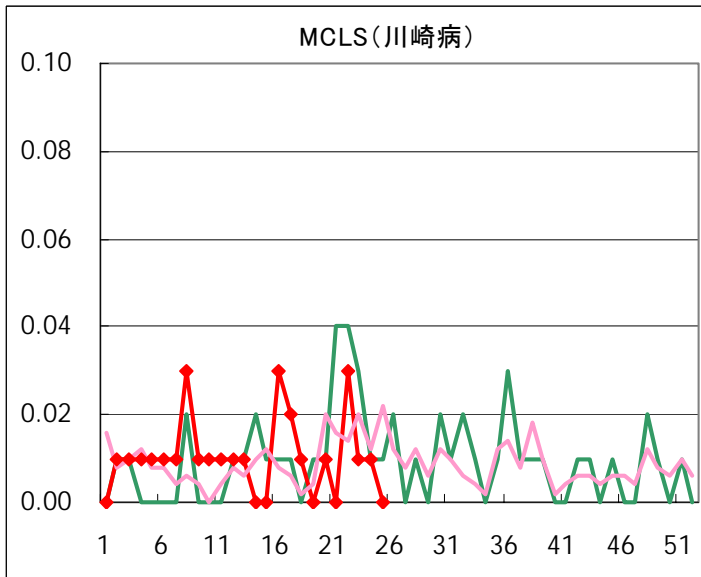
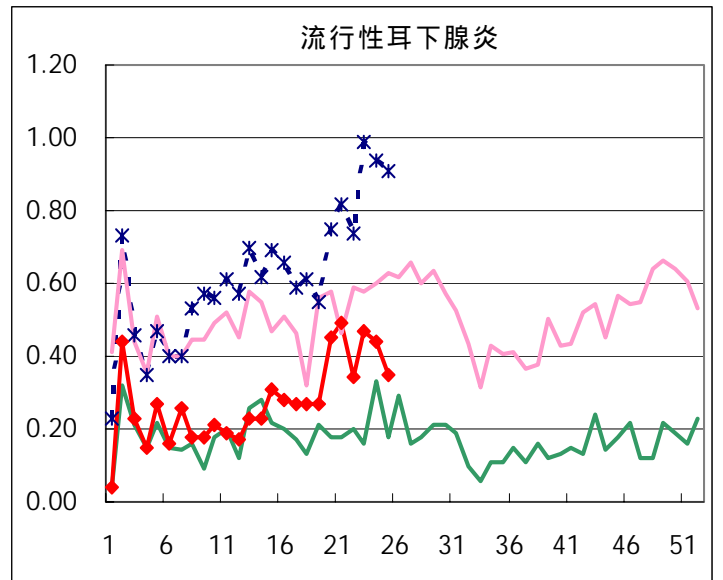
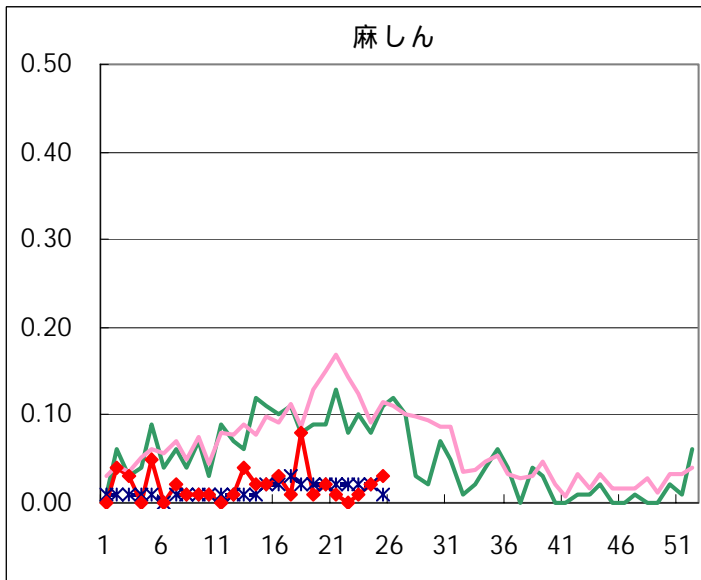
疾病名	性	2004年				4週合計	年累計
		22	23	24	25		
RSウイルス感染症	男	5	5	2	2	14	92
	女	3	2	1	4	10	63
インフルエンザ	男						9,163
	女						9,022
咽頭結膜熱	男	29	39	39	54	161	379
	女	24	32	34	55	145	315
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	男	108	96	113	80	397	2,036
	女	97	91	84	67	339	1,771
感染性胃腸炎	男	323	262	303	298	1,186	10,735
	女	259	254	258	250	1,021	10,133
水痘	男	96	87	76	63	322	2,197
	女	66	89	80	68	303	1,885
手足口病	男	2	13	22	62	99	139
	女	6	12	18	45	81	127
伝染性紅斑	男	73	36	31	42	182	882
	女	64	43	36	56	199	971
突発性発しん	男	58	48	34	41	181	920
	女	43	43	43	36	165	849
百日咳	男				2	2	11
	女			1	1	2	9
風しん	男	2	6		1	9	104
	女	6	4	2	4	16	79
ヘルパンギーナ	男	37	75	67	155	334	403
	女	47	70	67	139	323	392
麻しん(成人以外)	男			2		2	30
	女		1	1	4	6	29
流行性耳下腺炎	男	23	38	35	31	127	540
	女	25	29	27	19	100	441
不明発疹症	男	15	10	5	6	36	116
	女	4	4	11	9	28	111
MCLS	男	2				2	16
	女	2	2	1		5	18
急性出血性結膜炎	男						2
	女						3
流行性角結膜炎	男	4	6	6	6	22	186
	女	8	1	6	4	19	186
細菌性髄膜炎	男		1			1	6
	女						2
無菌性髄膜炎	男						6
	女		2			2	11
マイコプラズマ肺炎	男	2		1	4	7	30
	女			4	3	7	31
クラミジア肺炎（オウム病は除く）	男						
	女						2
成人麻しん	男						5
	女						1

疾病別グラフ(五類定点週報告分)

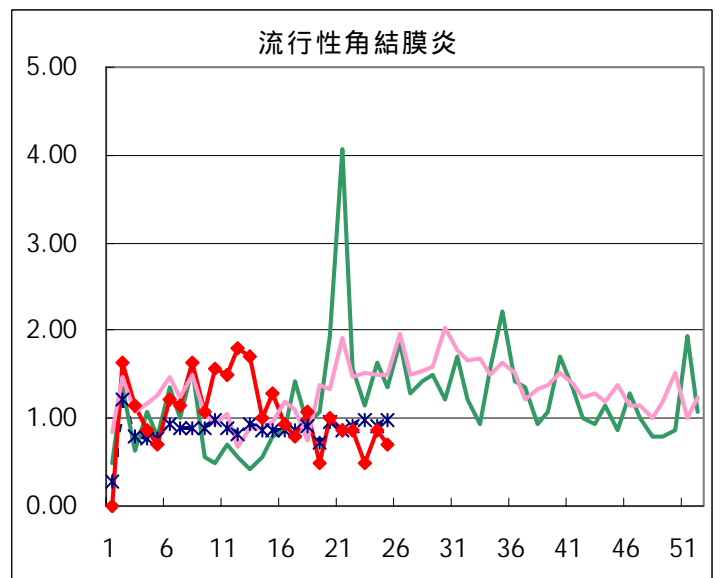
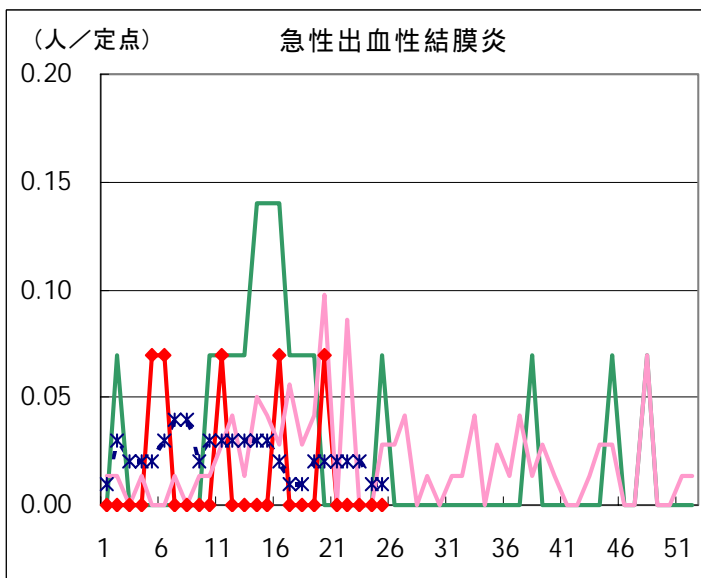
◆ 小児科・インフルエンザ定点



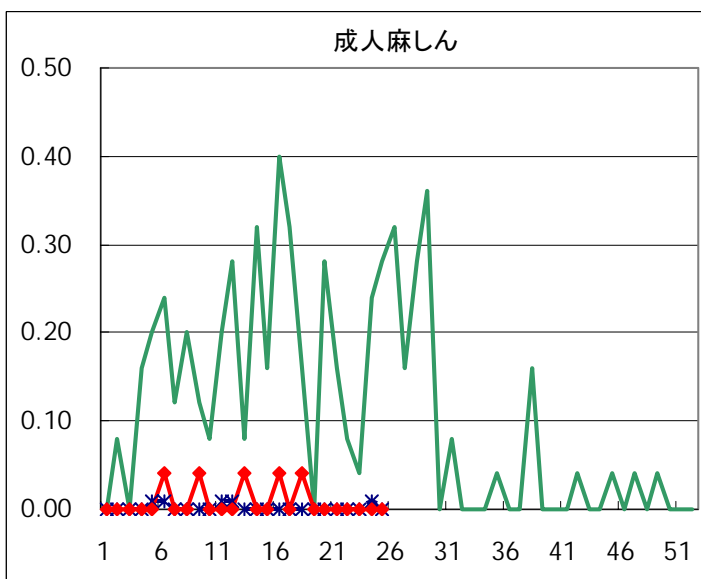
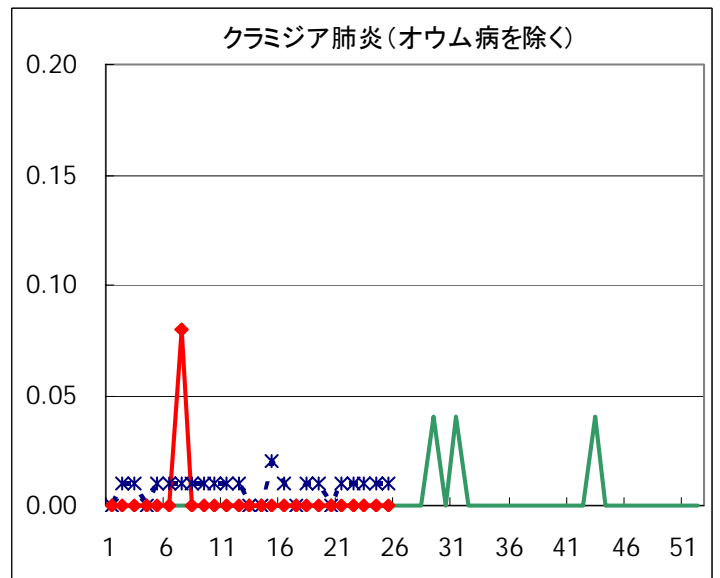
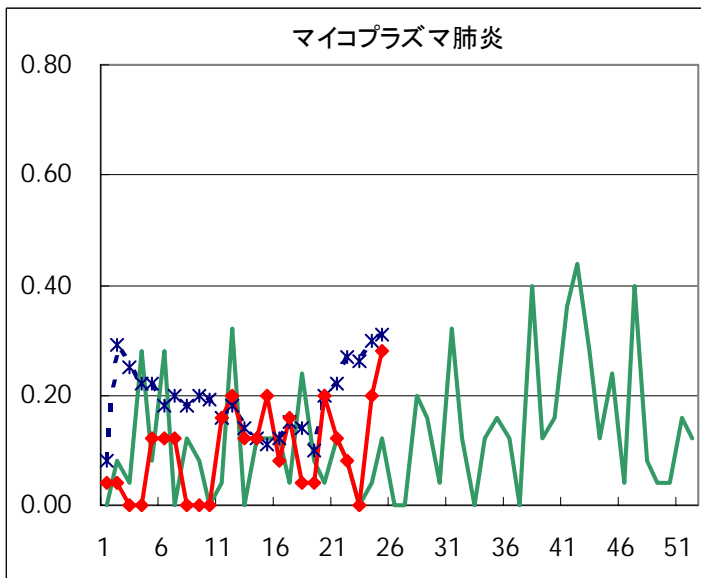
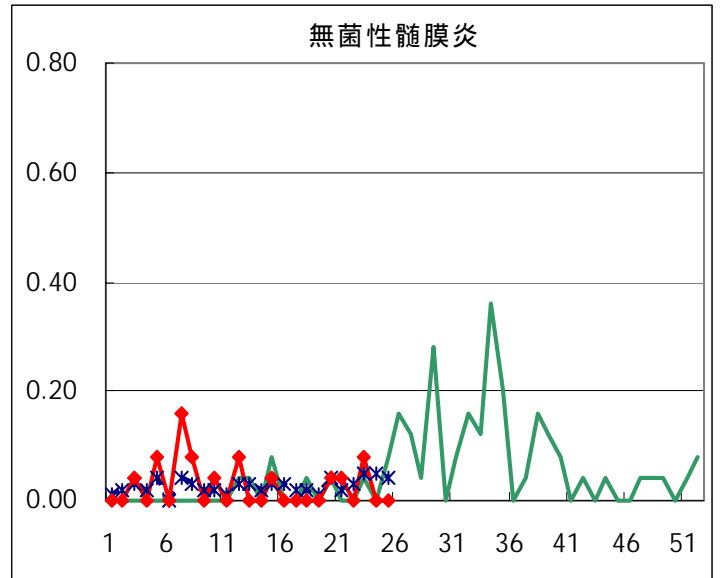
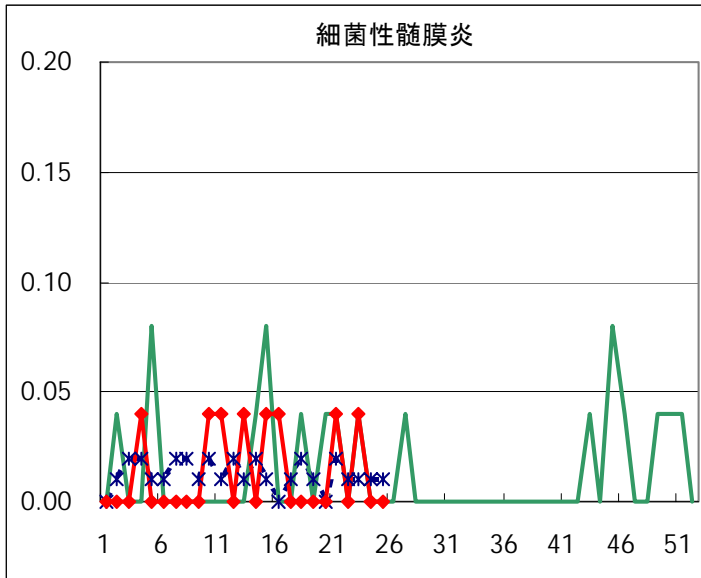




◆眼科定点



◆ 基幹定点



疾患別の定点医療機関数(週報告分)		
定点種別	疾 病	医療機関数
インフルエンザ	インフルエンザ	178
眼 科	急性出血性結膜炎	14
	流行性角結膜炎	
基 幹	細菌性髄膜炎	25
	無菌性髄膜炎	
	マイコプラズマ肺炎	
	クラミジア肺炎	
	成人麻しん	
小児科	上記を除く疾病	142

病原体検出情報

週別病原体・抗体検出結果(2004年18週～25週)

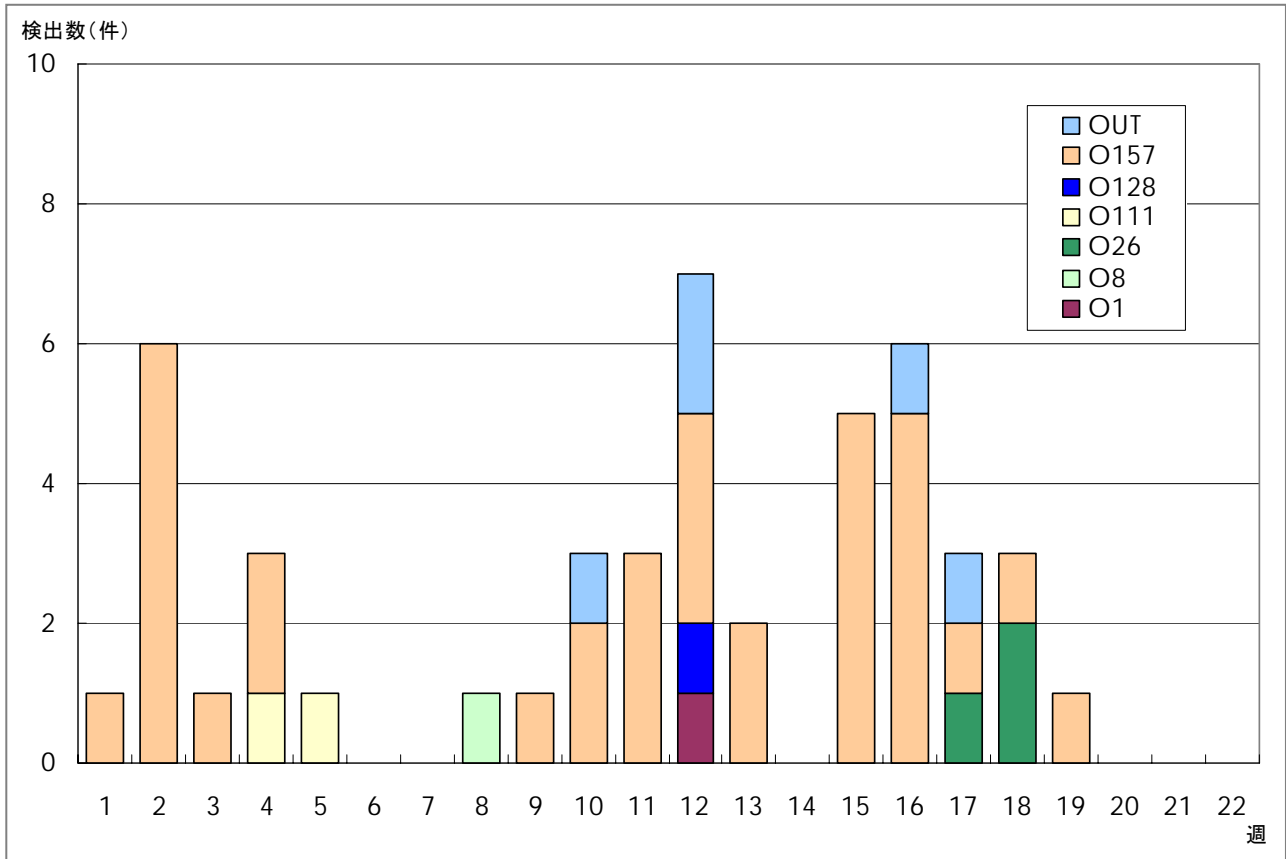
検出病原体・抗体		検体採取週								合計	
		2004年									
		18	19	20	21	22	23	24	25		
ウイルス	インフルエンザAソ連型										
	インフルエンザA香港型										
	インフルエンザB型		1							1	
	RSV										
	アデノ		6	5		8	12	4	5	40	
	エンテロ					8	3		2	13	
	ノロ	11	1	99	38	14	6	20		189	
	ロタ			2						2	
	単純ヘルペス		2							2	
	水痘・帯状疱疹						1			1	
	EBV						1			1	
	CMV	1								1	
	HHV6/7			1	1			1	1	4	
	ムンプス		2							2	
	麻疹										
	パルボB19			2					1	3	
	分離型別・遺伝子型別	ポリオ1									
		ポリオ2									
		アデノ1									
		アデノ2					1			1	
		アデノ3		1			1			2	
		エコー13									
		エンテロ71							1	1	
		コクサッキーA6									
		ライノ							2	2	4
	抗体	デング				1				1	
		ツツガムシ									
細菌	カンピロバクター							1	1		
	サルモネラ	5							5		
	下痢原性大腸菌				1				1		
	エロモナス										
	O157										
	MRSAコアグラウゼⅠ型										
	MRSAコアグラウゼⅡ型	4	3	3	3	3	2	2	20		
	MRSAコアグラウゼⅢ型			1					1	2	
	MSSAコアグラウゼⅤ型										
	溶連菌T-1型		1	1	1	1		1	5		
	溶連菌T-3型										
	溶連菌T-4型	1	3	1	1	2			2	10	
	溶連菌T-6型			1					1	2	
	溶連菌T-12型	1	6		3	2		1	3	16	
	溶連菌T-22型										
	溶連菌T-25型				1					1	
	溶連菌T-28型				2					2	
溶連菌UT			1						1		
性感染症	梅毒	1				1			2		
	クラミジア抗体	20	11	18	17	18	19	13	38	154	
	クラミジア遺伝子	1		1		2	1		1	6	
	淋菌遺伝子			1		1	1		1	4	
	パピローマ	6		3	6	5	3	3	3	29	

臨床診断名別病原体検出結果（2004年18週～25週）

臨床診断名 検出病原体	インフルエンザ (インフルエンザを含む)	上気道炎	下気道炎	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	脳炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	発疹症	流行性耳下腺炎	口内炎	水痘	その他	合計
インフルエンザAソ連型																	
インフルエンザA香港型																	
インフルエンザB型				1													1
RSV																	
アデノ		13	3	1		6	7	1				4			1	4	40
アデノ1																	
アデノ2		1															1
アデノ3																2	2
エンテロ		4					2			1		3				3	13
エコー13																	
コクサッキーA6																	
ポリオ1																	
ポリオ2																	
ムンプス													2				2
ノロ						189											189
ロタ						2											2
単純ヘルペス								1						1			2
水痘・带状疱疹しん															1		1
パルボB19												2				1	3
カンピロバクター						1											1
サルモネラ						5											5
下痢原性大腸菌						1											1

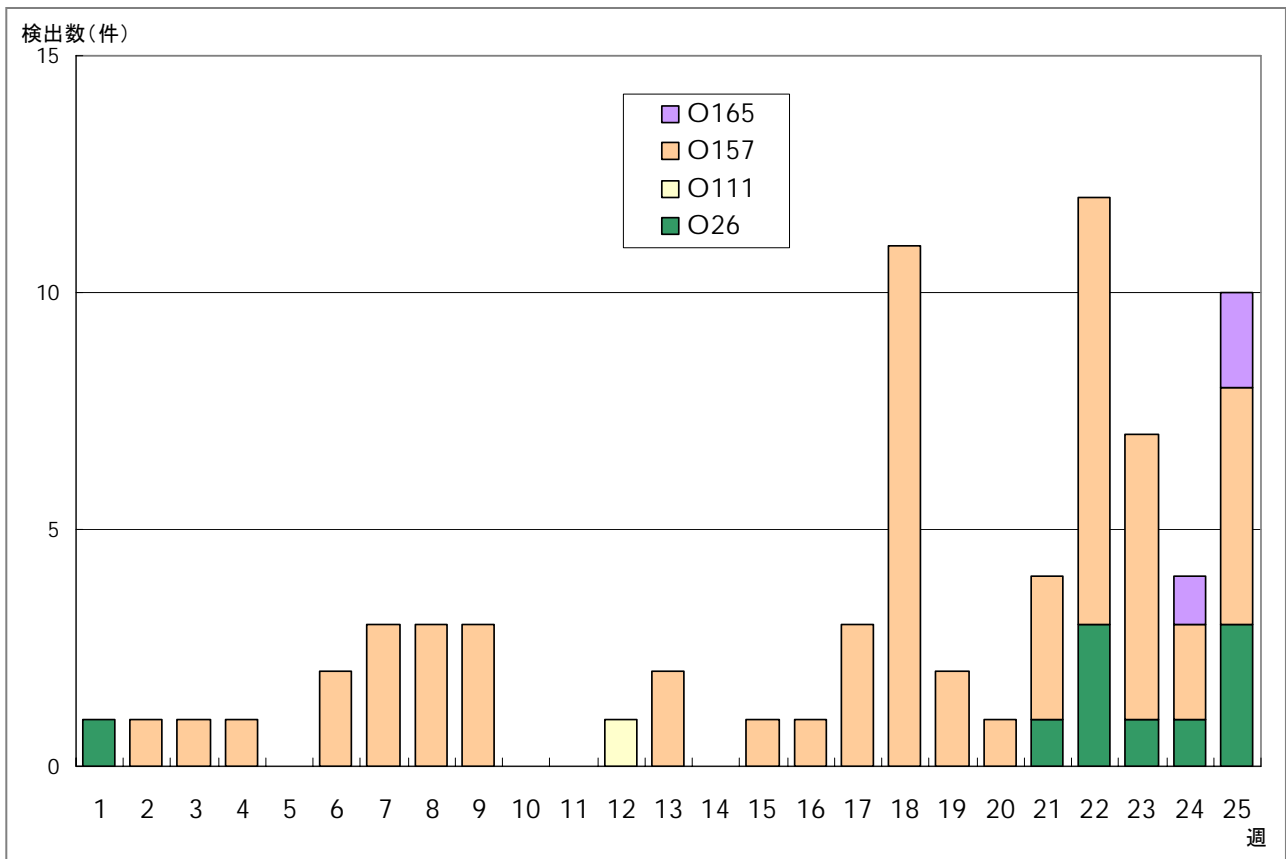
病原体グラフ(腸管出血性大腸菌感染症)

腸管出血性大腸菌感染症患者から検出された細菌(全国)



LASR 病原微生物検出情報(2004年5月24日現在報告数)

腸管出血性大腸菌感染症患者から検出された細菌(東京都)



東京都感染症発生動向調査

年齢階級別報告数 2004年 25週

	RS ウイルス 感染症	インフルエ ンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん
～6ヶ月					6	2			5
～1歳	1		5		23	4	2		50
1歳			18		63	28	17	6	18
2歳	1		20	9	55	18	18	6	2
3歳	1		16	15	64	27	17	8	2
4歳	1		19	22	55	21	13	14	
5歳			14	22	54	10	16	16	
6歳			8	21	44	7	13	11	
7歳			2	14	25	4	4	11	
8歳			2	17	20	6	5	6	
9歳			1	8	20	1		8	
10～14歳			2	9	37			10	
15～19歳				2	17	1			
20～29歳	2		2	8	65	2	2	2	
30～39歳									
40～49歳									
50～59歳									
60～69歳									
70～79歳									
80歳以上									
合計	6	-	109	147	548	131	107	98	77
先週比	3	0	36	-50	-13	-25	67	31	0

注：小児科定点把握対象疾病のうち、「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	百日咳	風しん	ヘルパン ギーナ	麻しん (成人 以外)	流行性 耳下腺炎	急性出血性 結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発疹症	MCL S
～6ヶ月	1		1					1	
～1歳			18					1	
1歳	1	1	75		1			4	
2歳	1		64		6			1	
3歳		1	50		8			3	
4歳		1	33		7		1	4	
5歳			25	2	9			1	
6歳			12		7				
7歳			4		7				
8歳			4		1				
9歳			2		1				
10～14歳		1	5		2				
15～19歳									
20～29歳		1	1	2	1		3		
30～39歳							4		
40～49歳									
50～59歳									
60～69歳							2		
70～79歳									
80歳以上									
合計	3	5	294	4	50	-	10	15	-
先週比	2	3	160	1	-12	0	-2	-1	-1

注：小児科定点把握対象疾病のうち、「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

保健所別報告数 2004年 25週

	RS ウイルス 感染症	インフル エンザ	咽頭 結膜炎	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	百日咳
千代田			2							
中央区				5	22	3	1	2	4	
みなと	4		9	5	8	3		13	1	
新宿区	2			1	13	2	8	1	3	
文京				1	2					
台東			1	9	14	2	2	4	3	
墨田区			2	4	12	2	1	8	5	
江東区			1	6	22	9		7	2	
品川区			3	8	13	3	3	2		
目黒区			3	1	4	3		4		
大田区			15	13	40	8	8	6	7	
世田谷区			7	4	49	13	1	2	6	
渋谷区			5		11	7	8	4	1	
中野区			1	6	33	3	2	4	1	
杉並				10	18		2		3	
池袋					6			1	1	
北区			9	5	12	6	2	1	2	
荒川区				5	10	3			1	
板橋区				3	6					
練馬区			2	11	36	3			3	
足立			3	2	7	8		2	1	
葛飾			1	7	13	8	51	4	4	
江戸川			20	10	42	8	12	3	8	
西多摩			16	14	34	7		14	5	1
八王子						5	1	2	3	
南多摩			1		14	6	3		2	
町田			1	2	16	3				
多摩立川				3	9	1		2	1	1
多摩府中				2	20	10	1	5	3	
多摩小平			7	10	62	5		2	6	1
島しょ							1	5	1	

東京都合計	6	-	109	147	548	131	107	98	77	3
定点当り報告数	0.04	-	0.77	1.04	3.86	0.92	0.75	0.69	0.54	0.02

保健所別報告数 2004年 25週

	風しん	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人 以外)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発疹症	MCLS	合計
千代田	1	5	1	1					10
中央区		11							48
みなと	1	1		2			2		49
新宿区		2				3			35
文京		4		2		1			10
台東		30							65
墨田区		2		1			1		38
江東区		5	1	1		1			55
品川区		13		7					52
目黒区				1					16
大田区		4					3		104
世田谷区		5		1					88
渋谷区	3	3		1					43
中野区		7					1		58
杉並				1					34
池袋		2				2			12
北区		44					2		83
荒川区		12		3					34
板橋区		3	1						13
練馬区		5		2			1		63
足立		13		8					44
葛飾		25		1					114
江戸川		23					2		128
西多摩				3					94
八王子		1							12
南多摩		5		2					33
町田		1		2		1	1		27
多摩立川			1	3		2			23
多摩府中		10		2					53
多摩小平		57		6			2		158
島しょ		1							8

東京都合計	5	294	4	50	-	10	15	-	1604
定点当り報告数	0.04	2.07	0.03	0.35	-	0.71	0.11	-	

保健所別報告数(定点当たり)2004年25週

	RS ウイルス 感染症	インフル エンザ	咽頭 結膜炎	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳
千代田			0.50							
中央区				1.67	7.33	1.00	0.33	0.67	1.33	
みなと	0.67		1.50	0.83	1.33	0.50		2.17	0.17	
新宿区	0.33			0.17	2.17	0.33	1.33	0.17	0.50	
文京				0.33	0.67					
台東			0.33	3.00	4.67	0.67	0.67	1.33	1.00	
墨田区			0.67	1.33	4.00	0.67	0.33	2.67	1.67	
江東区			0.33	2.00	7.33	3.00		2.33	0.67	
品川区			0.50	1.33	2.17	0.50	0.50	0.33		
目黒区			1.00	0.33	1.33	1.00		1.33		
大田区			1.67	1.44	4.44	0.89	0.89	0.67	0.78	
世田谷区			0.88	0.50	6.13	1.63	0.13	0.25	0.75	
渋谷区			1.25		2.75	1.75	2.00	1.00	0.25	
中野区			0.17	1.00	5.50	0.50	0.33	0.67	0.17	
杉並				1.67	3.00		0.33		0.50	
池袋					1.20			0.20	0.20	
北区			2.25	1.25	3.00	1.50	0.50	0.25	0.50	
荒川区				2.50	5.00	1.50			0.50	
板橋区				0.50	1.00					
練馬区			0.40	2.20	7.20	0.60			0.60	
足立			0.75	0.50	1.75	2.00		0.50	0.25	
葛飾			0.25	1.75	3.25	2.00	12.75	1.00	1.00	
江戸川			5.00	2.50	10.50	2.00	3.00	0.75	2.00	
西多摩			3.20	2.80	6.80	1.40		2.80	1.00	0.20
八王子						2.50	0.50	1.00	1.50	
南多摩			0.33		4.67	2.00	1.00		0.67	
町田			0.50	1.00	8.00	1.50				
多摩立川				0.50	1.50	0.17		0.33	0.17	0.17
多摩府中				0.20	2.00	1.00	0.10	0.50	0.30	
多摩小平			1.17	1.67	10.33	0.83		0.33	1.00	0.17
島しょ							1.00	5.00	1.00	

東京都合計	6	-	109	147	548	131	107	98	77	3
定点当り報告数	0.04	-	0.77	1.04	3.86	0.92	0.75	0.69	0.54	0.02

保健所別報告数(定点当たり)2004年25週

	風しん	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人 以外)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発疹症	MCLS
千代田	0.25	1.25	0.25	0.25				
中央区		3.67						
みなと	0.17	0.17		0.33			0.33	
新宿区		0.33				1.50		
文京		1.33		0.67		1.00		
台東		10.00						
墨田区		0.67		0.33			0.33	
江東区		1.67	0.33	0.33		1.00		
品川区		2.17		1.17				
目黒区				0.33				
大田区		0.44					0.33	
世田谷区		0.63		0.13				
渋谷区	0.75	0.75		0.25				
中野区		1.17					0.17	
杉並				0.17				
池袋		0.40				2.00		
北区		11.00					0.50	
荒川区		6.00		1.50				
板橋区		0.50	0.17					
練馬区		1.00		0.40			0.20	
足立		3.25		2.00				
葛飾		6.25		0.25				
江戸川		5.75					0.50	
西多摩				0.60				
八王子		0.50						
南多摩		1.67		0.67				
町田		0.50		1.00		1.00	0.50	
多摩立川			0.17	0.50		2.00		
多摩府中		1.00		0.20				
多摩小平		9.50		1.00			0.33	
島しょ		1.00						

東京都合計	5	294	4	50	-	10	15	-
定点当り報告数	0.04	2.07	0.03	0.35	-	0.71	0.11	-

インフルエンザ

今シーズンのインフルエンザは、A香港型が2月中旬にやや上昇したものの、全体的には小規模な流行だった。これは、A香港型ウイルスの抗原性に変異はあったものの、インフルエンザワクチン被接種者が昨年比に大幅に増加したこともあり、予防接種の効果が引き続き高かったこと、例年より暖冬であったことが影響していると考えられる。

一方、韓国、ベトナムに端を発した高病原性鳥インフルエンザは、11の国と地域で家禽類を中心に大量発生し、国内においても山口、大分、京都、大阪の4府県で発生した。人への感染もベトナム、タイで確認され、34人が発症し、発病の約2週間後に23人が死亡した。臨床的特徴として、一般のインフルエンザに比較して重症で、数日間以内に呼吸不全や死亡へ進展する肺炎や、発熱、咽頭痛、咳、リンパ球減少の初期症状、そして、肝機能の軽中等度障害、心腎の機能不全などが各症例に共通する。

幸いにも、今シーズンは明らかなヒト-ヒト感染は確認されず、また、ヒト型ウイルスとの交叉による新型ウイルスへの変異は見られなかった。

しかしながら、来シーズン以降における新型インフルエンザ発生の蓋然性は否定できない。また、抗インフルエンザ薬の効果は認められているものの、耐性の出現の可能性もあり万全でない。

このため、鳥インフルエンザ発生時の駆除を徹底する連携体制、大量の患者発生に対応する医療体制、抗インフルエンザ薬の供給体制、ワクチン生産基盤、サーベイランス体制の強化等の新型インフルエンザ対策を早急に整備する必要がある。

(文責・前田 秀雄)